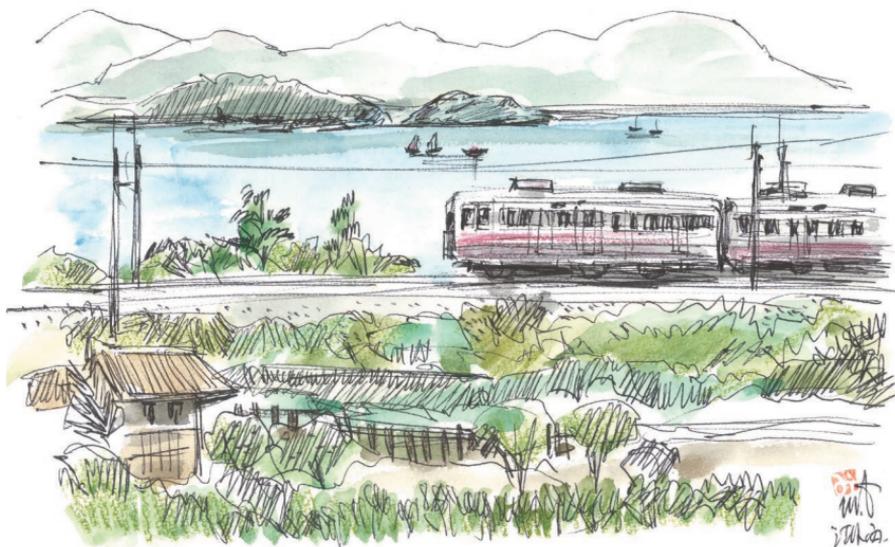


第18回

# 青春21文字 の メッセージ



電車と青春21文字プロジェクト

第18回

青春21文字  
の  
メッセージ

ことばが光ると おもいが届く



## 青春21文字 メッセージ

### プロジェクトマークについて

21文字メッセージ事業をより多くの方にとって頂くため、作品掲示や広報の際にアイコンとして、プロジェクトマークを滋賀県内のデザイン団体と学生との共同で作成しました。

「ことばが光ると おもいが届く」というキャッチコピーと滋賀県・琵琶湖・青春・文芸を表現するシンボルマークは、柔らかさと知性を特に意識しました。

## 21文字プロジェクトとは

「京阪（石山坂本線）は向かい合わせの席が青春ほいから好き!」、沿線の女子中学生の言葉です。この何気ない言葉からこの活動は生まれました。沿線に数多くの学校があり、大津市で琵琶湖に沿って走る京阪電車石山坂本線は青春路線。その駅数21に因んだのが「青春21文字のメッセージ」です。2006年にスタートした第1回から最終審査員をお願いしています俵万智さんは、学生時代に路面電車で通学されていて、毎回素敵なコメントをいただいています。

回を重ねて協力いただく団体・企業が増え、このプロジェクトは滋賀県域から全国に広がってきています。電車から生まれたこの活動、入口「交通」、切り口「文化・文芸」、出口「観光」を合言葉に、滋賀県発の新しい独自文芸が、心豊かなまちづくりにつながることを願っています。

## はじめに

琵琶湖に沿って走り、沿線に学校の多い京阪電車石山坂本（いしやまさかも）線の駅数21に因んで始まった新様式の文芸表現「青春21文字のメッセージ」。

今回が第18回と、人間でいえば成人を迎え、「ときめき・のりかえ・きらきら」3つのサブテーマで作品を募集しました。

昨年に引き続き4回目のクラウドファンディングを実施、多くの方の支援を受けて成立。滋賀県の「令和6年度滋賀をみんなの美術館に」プロジェクトに3年目となる今年も採択され、メッセージ作品制作ワークショップや、子どもや若者たちを巻き込んだアート作品制作ワークショップなど新たな試みにチャレンジできました。

18回目となった本事業ですが、2006年の当初は、電車は恋をはぐくむ場であるところから作品が大半でしたが今回、「きらきら」した青春の先にみえるさまざまな「ときめき」がちりばめられています。「のりかえ」ということばにも人生の分岐点をイメージさせられる作品が多数見られました。

最終審査員の俵万智さんのことは、「全国から、そしてさまざまな年代のかたから、ご応募がありました。この賞の広がりとともに、電車や駅にまつわる思い出やドラマが、多くの人々の心にあることをあらためて感じる選考でした。」

## 目次

21文字プロジェクトとは	1
はじめに	2
これまでの軌跡	5
過去の応募点数	6
第18回受賞作品	7
滋賀県知事賞	8
近江勸学館賞	13
西日本旅客鉄道賞	15
入賞作品	17
入選作品	23
団体賞	50
審査員コメント	51
俵万智さん総評	54
／	／
大津市長賞	9
京阪電鉄賞	13
比叡山鉄道賞	15
／	／
青春賞	10
近江鉄道賞	14
／	／
さわやか賞	11
信楽高原鐵道賞	14
／	／
ユーモア賞	12

滋賀県知事祝辞 56

大津市長祝辞 57

今年の活動を振り返る 59

令和6年度滋賀をみんなの美術館に 60

① 大津市立図書館で21文字作品制作ワークショップを開催 61

② 近江鉄道ミュージアムで「青春21文字のメッセージ展」を開催 62

③ 「滋賀をみんなの美術館に」作品制作と美術館展示 63

④ 滋賀県立美術館でコンサート開催 65

クラウドファンディングについて 67

画家寺田みのるさんコメント 68

前回（第17回）受賞者コメント 69

あとがき 73

協力者リスト 75

## これまでの軌跡

2001年.. 大津のまちづくりについて、行政からの呼びかけに応じて市民団体が「京阪電車石坂線」をまちづくりのテーマの一つとして提案

2003年.. 「石坂線21駅の顔づくりグループ」として活動開始

2006年.. 「電車と青春21文字のメッセージ」事業開始

2007年.. 企業とNPOの協働を顕彰する「第5回パートナーシップ大賞」グランプリ受賞

2008年.. 「あしたのまち・くらしづくり活動賞」内閣官房長官賞受賞

2012年.. NHK大津の地域発ドラマ「石坂線物語」に「21文字メッセージ」が原作として使用され3編の単発ドラマが製作された

2015年.. 10年目を迎え「電車と青春21文字プロジェクト」を結成。クラウドファンディング、NHKとの連携（番組）あほやねん！すきやねん！など10周年記念事を実施

2016年.. 文化経済フォーラム滋賀×文化で滋賀を元気に！賞2015 大賞受賞

2017年.. 「電車と青春21文字プロジェクト」として、大津市との協働提案事業として実施

2018年.. 滋賀県の後援・連携で県内の公共交通である近江鉄道にも活動が広がる

滋賀トヨペット(株)の協賛で作品集を作成・発行

2019年.. 滋賀県協働提案実施事業として活動

県域での公共交通として信楽高原鐵道とも連携

写真、デザイン、音楽などの他分野団体とコラボする文化活動に発展

シンボルマークを制定

2020年..前年に引き続き滋賀県協働提案事業として活動し、西日本旅客鉄道とも連携

2021年..「第15回目実現プロジェクト」としてクラウドファンディングを実施し事業を継続

2022年..ブルボン吉田記念財団「2022年度文化芸術・スポーツ振興活動」助成事業、令和4年度「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト事業採択 クラウドファンディングを実施

2023年..令和5年度「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト事業採択 県域での公共交通として比叡山鉄道(坂本ケーブル)とも連携 クラウドファンディングを実施

2024年..令和6年度「滋賀県をみんなの美術館に」プロジェクト事業採択 県立美術館での展示に滋賀大学教育学部、作品制作講座に大津市立図書館と連携 クラウドファンディングを実施

## ●過去の応募点数

第1回 (2006年度)	2355点 (47都道府県)	第10回 (2015年度)	4603点 (47都道府県)
第2回 (2007年度)	2621点 (〃)	第11回 (2017年度)	4999点 (〃)
第3回 (2008年度)	2017点 (〃)	第12回 (2018年度)	4527点 (〃)
第4回 (2009年度)	1903点 (〃)	第13回 (2019年度)	4017点 (〃)
第5回 (2010年度)	1905点 (〃)	第14回 (2020年度)	5350点 (〃)
第6回 (2011年度)	2948点 (〃)	第15回 (2021年度)	4285点 (〃)
第7回 (2012年度)	3042点	第16回 (2022年度)	4557点 (〃)
(中国、アメリカも)		第17回 (2023年度)	5022点
第8回 (2013年度)	3778点 (スイスも)	(台湾、カナダ、アメリカ	46都道府県)
第9回 (2014年度)	5048点	第18回 (2024年度)	4525点 (47都道府県)
(韓国、フィンランド、シンガポール、アメリカも)			

# 第18回受賞作品



信楽駅

初めて始発に乗った。朝ってこんなに光るんだ。

会田あやか（滋賀県 22歳）

【俵さん講評】

駅や電車は、時間帯によって表情が変わりますが、始発はまた格別です。その驚きが、瑞々しく表現されました。「光が眩しい」くらいでは足りないでしょう。朝を主語にしてしまったところに迫力があります。

大津市長賞

# もう君に逢えないと知る乗換駅 後ろ二両切り離します

山本 貴幸（大阪府 36歳）

## 【俵さん講評】

秘めた思いだったのでしょうか。一つの恋の終わりが、駅と電車に重ね合わせてリアルに伝わってきます。今が人生の乗換駅、思い出を切り離して進んでいこうというふうにも読めて、切ないですね。

# さくらんぼみたい分け合ったイヤホンは通学路

小沼 智佳（京都府 21歳）

## 【俵さん講評】

一つのイヤホンを分け合って、同じ曲を聴く通学路は、まさに青春だなあと思いました。Y字に分かれるイヤホンを「さくらんぼ」とした比喻が素晴らしいですね。見た目だけでなく、甘酸っぱいところも同じです。

# 今、S字カーブが始まる

## 君の横顔が見え隠れ

上田 幸男（滋賀県 76歳）

### 【俵さん講評】

横顔を、ずっと見ているからこそその発見ですね。七十代とは思えぬときめきに感服しました。「始まる」という現在形、「見え隠れ」という言いさしの表現。これらが、まさにカーブで揺れている感じを伝えてくれます。

# このときめきはキノセイじゃなく、スキノセイ

村井 愛理（石川県 17歳）

## 【俵さん講評】

「気のせいじゃない」なら誰でも言えそうですが「好きのせい」と掛けた言葉遊びに唸りました。気の精、好きの精、という妖精がいるような気がしてくるのは、カナで音だけを伝えたからでしょう。技あります。

近江勸学館賞

金曜日も「また明日」が言える距離になりたい

仲川 暁実（愛知県 27歳）

京阪電鉄賞

伝えなきや。背を押す「ドアが閉まります」

伊藤 夏子（千葉県 16歳）

近江鉄道賞

同窓会に向かう電車に初恋が乗ってきた春。

ガブリータ（東京都 48歳）

信楽高原鐵道賞

行き先の消えかかった定期券に別れを告げる卒業式

熊田 悠人（京都府 14歳）

西日本旅客鉄道賞

150円の入場券で、君と過ごす数分を買う

まるん（長野県  
24歳）

比叡山鉄道賞

みんなが画面を見ている中、車窓を眺める君が好き

竹内 喜一（大阪府  
47歳）



京阪電車車内吊り広告



青春号（京阪電車）

## 第 17 回入賞作品 展示の様子

(2024年2・3月撮影)



比叡山鉄道駅張り



商店街での展示

# 入賞作品



瀬田川

新学期は知らない街の改札をくぐり抜けるよう。

藍川すう（神奈川県 17歳）

「落としましたよ」の手に、拾われる私の心臓

天海楓（埼玉県 21歳）

過ぎた会話は忘れたけど、  
過ごした時間は覚えてる

FOUR (京都府 16歳)

成瀬も歩いた駅への坂  
ときめく前に息切れる

枝 きぬ枝 (滋賀県 73歳)

乗ったかな。乗りかえたかな。降りたかな。

加藤 道子（神奈川県 73歳）

のりかえをするたび貴方に近づく幸せの扉

近藤 己順（大阪府 41歳）

君の心行きの電車が発車しますときめきに注意を

真奈美 0116 (静岡県 12歳)

幾度も乗り換えを経てようやく着けた貴方の隣

みちお (神奈川県 19歳)

膳所駅のカーブ 遠心力に乗っかって進む初恋

やまづみ (滋賀県)

36歳

錆びたレール 草に埋もれて眠ってる 今は虫の駅

吉田 進次 (滋賀県)

61歳

# 入選作品



比叡山ケーブル

車両に残るは私と彼。大丈夫、誰もみてない。

哀ちゃん（東京都

16歳）

寝てる間に開いたままの参考書がひざ掛けに

青木 遥香（広島県

21歳）

ふと、つり革を見ると 指輪 結婚したんだね

赤坂 和代（東京都

20歳）

「でんしゃ！」と言った君が今はその仕事だね

アキ（千葉県 63歳）

スマホじゃなくて本読む私、待合室でプリンセス

浅井 優多（兵庫県 22歳）

「また明日」と降りる君 僕の手に残る君の熱

あさつき（三重県 27歳）

対面座席で遠い君にも、映る窓でなら近づける

天野 周（滋賀県 27歳）

荷物が増えた里帰り 見慣れた景色で立ち止まる

イナサク（滋賀県 28歳）

ときめきの一瞬、車窓見るふりして あなた見る

岩切 涼子（兵庫県 69歳）

黄金の稲穂の海をかき分けて行け、ゆけ、電車

大継 真由（滋賀県 19歳）

50代女子高生にときめいた、席譲られて落込んだ

岡本 望（滋賀県 53歳）

視界の端にあなた。吊り広告の文字も記号。

小野 陽介（京都府 42歳）

ずっと続く「Re:」メールが、私の青春だった。

かおり（東京都

37歳）

つり革にそろいの銀 照れるきみは妻になる

鍵本 奈々美（滋賀県

26歳）

今は私が君を好き 恋に折り返し乗車はありますか

かじ（滋賀県

18歳）

通学電車から通勤電車へ  
制服脱いだ君がいる奇跡

かっちゃん（東京都  
67歳）

若者よ人生とは乗りかえ間違いのくり返し

勝見 勉（京都府  
66歳）

車両から見える満開の桜  
もう君が乗ってこない

兼田 侑奈（愛知県  
18歳）

傘寿まで手を取り合い乗り換えなしで来た二人

カラスの行水（広島県 80歳）

貴女の言葉が嬉しくて辞書で引いて見た何回も

川口 一壽（神奈川県 83歳）

お前も海が見たいのか。駆け込み乗車の花びら1枚。

木村 綾花（東京都 20歳）

目的の駅は次 『あつた!』 と子のメール 桜咲く

神代 佐和子 (長崎県 63歳)

こつそりと桜色の口紅を祖母がくれた上京前夜

くるみ (埼玉県 38歳)

帰り道、君の隣は予約のできない指定席。

けんいち (東京都 25歳)

手を添えて乗り降りを手伝う夫婦に憧れ

小出 絃子（千葉県 42歳）

乗りかえる駅で寝たフリし朝練サボり初デート

河野 泰子（大阪府 37歳）

不安な乗り換えを終え、車窓の風景は輝きだす

こっこ（福岡県 30歳）

電車通学初日。柱に隠れた母が見え見えだった。

コッコ（東京都 79歳）

路線図を見てメロンの模様と豆鉄が言う

斉藤 寿美子（東京都 70歳）

乗る君と降りる私すれ違う一瞬が待ち遠しい

さきちゃん（愛媛県 21歳）

車窓へとさしこむ青空が何より映える君の半袖

汐海 岬（東京都

52歳）

君が暮らした町の駅 50年後の今も心が騒ぐ駅

塩谷 力春（埼玉県

70歳）

あと一駅。手鏡みて一番可愛い私で君のもとへ

重田 実絵子（福島県

25歳）

親子3世代。初めて一緒に乗る電車は照れくさい。

しの（滋賀県 36歳）

あなたのために時間をかけて準備した一言のおはよう

しょうゆ（千葉県 16歳）

窓の外を眺める君を小説越しに盗み見るわたし

杉村 美海（静岡県 17歳）

猛暑日に駅前で声からし募金箱抱える制服まぶし

田久保 茂和（福岡県 68歳）

送迎していた最寄駅に、今日は若葉の娘が待つ。

竹内 良樹（滋賀県 43歳）

ジイジとバアバ、取り合う孫のひざ抱っこキップ

田中 俊彦（滋賀県 62歳）

真横には君の横顔。心臓の音バレませんように

だも（福岡県

13歳）

人生の甘味 君からのりかえなかつた 青春の正解

俵谷 真理子（大阪府

40歳）

恋人と笑う君と、すれ違い、そつと降りる私。

ちゃんべ（茨城県

19歳）

トンネルを抜けた電車 不登校から卒業の息子

坪久田 文子（滋賀県 60歳）

泣いた赤ちゃんを知らない皆があやす優しい時間

堂坂 迪子（滋賀県 39歳）

あのコと目が合う 偶然と思う自分 思いたくない自分

とし（東京都 56歳）

「出発進行！」一両目もうひとりの小さな車掌さん

中井 享子（愛知県 52歳）

知らない駅が「好きな人の最寄り駅」になった

中西 琴音（愛知県 20歳）

無人駅降り立ちて聞こゆ はるか湖面のささやき

仲西 貞之（滋賀県 69歳）

つり革持たずに体幹鍛える、絶賛自分磨き中。

中西 穂（和歌山県

15歳）

背伸びして吊り革に指先が触れた子の誇らしげな顔

茄子の夜市（滋賀県

45歳）

彼のズボンのほつれ、知ってるのきつと私だけ

西川 昂汰（大阪府

31歳）

通学で一緒だった初恋の人と 今度は通院で

野村 信廣（東京都 81歳）

問一 ここから君の隣までの最短距離を求めなさい

野村齋藤（愛知県 22歳）

運転席をのぞきこむ子のつま先立ちの真剣さ

ハコネコ（東京都 58歳）

毎朝吊り革に手を伸ばし確認。背、伸びたかな。

橋本 風沙（埼玉県 15歳）

園児たち元気に手を振り汽笛でお返し

原田 美咲（滋賀県 26歳）

桜散る改札で両手で眺めるピカピカの定期券

平木 孝典（福岡県 17歳）

二人で乗って三十年 終着駅までずっとずっと

藤田 徹郎（新潟県 61歳）

初めての切符、自動改札機に奪われた吾子の泣き顔

藤田 陽子（滋賀県 67歳）

次降りるよと妹に靴を履かせゆれるほっぺた

ふたば（東京都 20歳）

部活の朝、乗り換え待ちに父の塩むすび二つ

堀 卓（千葉県 52歳）

駆け込みはおやめ下さい その恋は逃げません

ほろろ（東京都 56歳）

片想い 今ではあなたのとおりで ゆらられてる

ぼん（宮崎県 30歳）

のりかえごとに雨あがり、曇り心が晴れていく

前田 智則（滋賀県 17歳）

思い出が揺れている。卒業生で埋まる車両。

松田 翔（滋賀県 36歳）

子供の喜び。先頭車両は心動かす秘密の場所。

松本 悠誠（滋賀県 17歳）

多めのチャージ金額には、遠出の期待と覚悟。

まるこいろ（東京都

21歳）

駅の鏡で服装よし。私服の君とははじめまして

村井 杏歌（滋賀県

14歳）

吊革と一緒に、君の心も掴めたら、なんてさ。

廻（神奈川県

20歳）

学生たちのキラキラした言葉で車内がプラネタリウム

mojaraw (愛知県 47歳)

素知らぬ顔で黙って席を立つその不器用な優しさ

モチモチのもち (滋賀県 22歳)

あ、乗りません。車掌に謝りホームで君待つ。

もっち (沖縄県 18歳)

振り向かず改札を出る君 旅立つ背中

元木 恵子（滋賀県 51歳）

お母さんに見せる背中、私頑張ってくるよ。

森に恋（和歌山県 17歳）

いつもの電車。でも違う。だって今日から大人料金

矢内 柚花（滋賀県 17歳）

友が降りた後空いた席と寂しさを斜陽が埋める

ユウナ（香川県 19歳）

夏の匂いをまとう君 日焼けの腕と白い吊り革

横田 浩之（京都府 55歳）

親なしで初の乗車。握りしめた切符がグニャツ。

Writer Q（岐阜県 49歳）

君があそこに見えるのに、I C O C A 残高不足です。

ルーキー（山梨県 43歳）

団体賞

滋賀県立瀬田工業高等学校（滋賀県）

金城学院高等学校（愛知県）

## 審査員コメント

### ● 大津市副市長 國松 睦生

初めて審査をさせていただきました。どれもこれも素晴らしい。青春ってどんなだったか、もう何年も前のことで忘れてしまっているのに審査できるのか、と不安でした。でも読ませていただこうちに、あーそうだ、こういうのだ、確か。胸が熱くなった、人知れず涙した、憧れだけで、自分にもできるんじゃないかって勘違いしてた。あのときの感覚を少しだけ呼び起こさせていたたいたひととき。幸せでした。

### ● 大津商工会議所女性会会長 岡澤 則子

大津商工会議所女性会では今年も丹念に12名で二次審査を行わせて頂きました。毎年の行事になっておりもはや審査もベテランの域に入って来ました。概ね例年通りでしたが、同じ電車の思い出も光を当てる角度によって見えてくる景色が異なるのを痛感致しました。

「言葉」の大切さを痛感致します。自分を素直に見つめて語り、「言葉」に自分だけの宝石のような思い出の「心」を乗せる素敵な作品に多く出会わせていただきました。

我々にとって懐かしい京阪石坂線。タイムスリップして来年は応募してみたい気持ちになりました。毎年エキサイティングな時間を頂き感謝です。最終発表をとっても楽しみに致しております。

●日本放送協会大津放送局長 小磯 亮

少し前に読んだ本の中に「半径3メートルの幸福」という言葉を見つけました。著者は「半径3メートルはお互いの顔が見えて声をかけられる世界。半径3メートルに幸せがないと人生の満足度は高くならない」と述べています。皆さんの21文字メッセージを拝見すると、その一瞬しか湧き出ない気持ちがストレートに伝わってきました。そして、その気持ちちが青春時代の真っ只中から出てきた感情ですから、ズドンと響いてきました。青春時代の足元の「きらきら」や「ときめき」を大切にします。その気持ちちや感情こそが未来の糧になるのではないか、そんな気分を味わうことができた審査でした。来年も楽しみにしています。

●毎日新聞大津支局長 藤田 文亮

「掴んだ君のリユックの紐」おそろいのスニーカー「分け合ったイヤホン」。今回も、詠み人の目に映った「ときめき」がちりばめられた、青春の王道がズラリと並んでいました。

しかし私は、そんな「きらきら」した青春の先に続く、人生の深みを感じさせてくれる言葉に、ついつい目がいつてしまいます。

「乗ったかな、降りたかな」という、幼子の冒険に気が気でない幸せの景色。「トンネルを抜けた不登校」という、曇天に差した薄明かり。親心の旅に、終着駅はありません。

「武骨な父の塩むすび」「離せなかつた母の手」「亡き父のネクタイ」。親心は、やがて親思う心に「のりかえ」られ、路（みち）はいつまでも続いていく。そんなことを感じさせられる言葉たちでした。

●特別審査員 福井 貴浩

21文字という限られた世界に、多くの人の思いが込められた短歌と出会いました。

それぞれの言葉に人々の心の輝きや揺らぎが宿り、物語に心を動かされました。

「ときめき」「のりかえ」「きらきら」をテーマに選ばれた500の短歌を味わいました。

その風景には、自身の思い出が重なり、胸に響く瞬間が訪れます。

京阪電車に揺られた日々、曲がりくねるカーブの先に見た儂い景色。

その美しさを忘れていたことに気づきました。

再び電車に乗り、21文字の世界を旅してみたいと思います。

(※) 今回、行いましたクラウドファンディングのリターンとして、2次審査員をお願いした支援者の福井貴浩さんの審査コメントです。ありがとうございます。

## 俵万智さん総評

全国から、そしてさまざまな年代のかたから、ご応募がありました。この賞の広がりとともに、電車や駅にまつわる思い出やドラマが、多くの人々の心にあることをあらためて感じる選考でした。



### 俵万智（たわらまち）歌人

早稲田大学卒。1986年、作品「八月の朝」で第32回角川短歌賞受賞。1987年、第一歌集「サラダ記念日」を出版、ベストセラーとなる。翌年、「サラダ記念日」で第32回現代歌人協会賞受賞。2004年評論「愛する源氏物語」で第14回紫式部文学賞受賞。第四歌集「プーさんの鼻」で2006年第11回若山牧水賞受賞。歌集の他、小説、エッセイなど著書多数。歌集「未来のサイズ」で詩歌文学館賞、逦空賞。長年の清新な創作活動と短歌の裾野を広げた功績により朝日賞ならびに紫綬褒章受賞。最新歌集は『アボカドの種』。

— 第18回 —



クラウド  
ファンディング  
を実施(予定)

※詳細はHPで紹介しています。



下記のSNSでも案内しています。



# 青春21文字の メッセージ

募集中

応募締切 2024年9月30日 (消印有効)

●サブテーマ

ときめき・のりかえ・きらきら

※複数テーマの組み合わせ、または  
どれか一つをイメージした作品

ことばが光ると おもいが届く

手紙、詩など形式は自由の21文字文芸

青春や交通にまつわる思い・夢などを21文字で

サブテーマをイメージして表現してください。

入選作は照下を走る電車で駅などに展示します。

●応募要項・詳細は裏面をご覧ください

●最終審査員・億万智(歌人)

●発表・2025年1月(電車と青春21文字

プロジェクトのホームページで発表)

●主催・電車と青春21文字プロジェクト

●共催・大津市

●後援・滋賀県

●お問い合わせ先・電話080097504344

当プロジェクトは、21文字メッセージ発祥の地を舞台にした  
青春小説の主人公・成瀬あかりの活躍を描いています。



宝島文庫著 新潮社

「作者の奮闘と書き手からのコメント」

★成瀬あかりの活用しているJR阪神線

皆さんこんにちは。メッセージを準備してみました★

ワークショップ開催!!!

7月26日(土)18時~20時 21文字のメッセージのワークショップ(大津市立図書館)

「思いを言葉にして送る」動作の工夫を聞き、実際に

21文字のメッセージを作ってみよう!

日時・2024年8月24日(土)13時~15時

場所・大津市図書館本館(読書室3F)

定員・30人 参加費・無料

対象・中学生以上(中学生は1名)

申込先は、(株)Oのぞみオンライン

電話かメール (メール)denryu@ozonjz.jp (signal.com)



デザイン・監修・びわこデザイン文化協会 / 角谷和好

ポスターデザイン：角谷 和好 監修：びわこデザイン文化協会

## 滋賀県知事祝辞

「第18回 青春21文字のメッセージ」作品集の御完成、誠におめでとうございます。

今回は4525作品もの応募があり、中には毎年応募されている方もおられると伺っています。このプロジェクトが毎年多くの方の楽しみとなつていてることを喜ばしく思います。

また、今年は18回目を迎えられ、人というと成人を迎える年になります。長く続けられるということは、「毎年の風物詩」のように、なくてはならないものになつているのだと思います。

さて、今回のサブテーマは「ときめき」「のりかえ」「きらきら」でした。皆様の作品を見ておりますと、共通したテーマでも全く色合いの異なる作品となつていたことが印象的でした。日常の中にある電車や駅が舞台だからこそ、人の数だけのドラマがあるのだと思います。青春21文字のメッセージを通じて、貴重な思い出の一部を共有いただけたことを嬉しく思います。

県としては、これからも電車が皆様の日常に寄り添えるよう、公共交通の魅力を発信してまいります。ぜひ、青春小説「成瀬は天下を取りに行く」の舞台でもあり、この青春21文字のメッセージの発端となった京阪石山坂本線に乗つて新たなドラマを作ってください。

最後になりますが、このプロジェクトに御尽力いただきました関係各位の皆様には厚くお礼申し上げます。今後ますますの御発展と皆様の御活躍をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和7年吉日

滋賀県知事

三日月 大造

## 大津市長祝辞

「第18回青春21文字のメッセージ」が全国各地から4525点ものご応募をいただき、作品集の発刊へと繋がりましたこと、心からお喜び申し上げます。

京阪電車の石山坂本線にある21の駅にちなんで始まった「青春21文字のメッセージ」は、電車や青春にまつわる市民の皆様の温かい想いから始まった事業だと伺っております。

各回設けられますサブテーマに沿わせ、かつ、21文字という限られた文字数に想いを乗せて表現することは、一見すると簡単なようですが、実は至難の業です。今回入選された作品は、どれも素晴らしい作品で、短い言葉であるにも関わらず、駅や電車内での1コマを切り取って、読んだ皆様が情景を思い浮かべやすい魅力的な表現をされており、感銘を受けました。

現在、商店街や駅、京阪電車内など市内各所にて「青春21文字のメッセージ」の作品が掲示されております。通勤や通学、お出かけの際には、ぜひご覧いただき、これからもより多くの皆様の心に21文字の温かなメッセージが届きますとともに、大津のまちに愛着を持っていただければ幸いです。

結びになりましたが、事業や作品集の制作にご尽力いただきました関係各位の皆様には厚くお礼を申し上げます。

令和7年吉日

大津市長 佐藤 健司

滋賀大学  
コラボ

・教育学部 附属幼稚園・小学校・中学校  
滋賀県立膳所高等学校 美術班  
アート

# 青春21文字の メッセージ展

〜ことが光ると おもいが届く〜

●テーマ  
電車と青春

青春の思いを電車・駅を切り口に21文字で表現する新文芸

2025年 1月11日(土)～19日(日)

9:30～17:00(19日は16:00まで)※休館:14日(火)

滋賀県立美術館 ラボ & ポップアップギャラリー

滋賀県大津市瀬田南大萱町 1740-1 tel.077-543-2111 fax.077-543-2170

- 第18回 青春21文字のメッセージ 入賞・入選 100作品・過去の入賞展示  
青春21文字のメッセージ(文字)をビジュアル(絵)に表現した作品展
- ★イベント:1月11日(土) 11:00～12:00 木のホール  
・ライブ:コラボステージ「青春21文字のうた」ほか  
滋賀大学教育学部アベラサール MEBA☆CHIKO
- ※イベントの内容が変更になる場合があります。詳しくは、ホームページをご覧ください。

- 令和6年度「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト採択事業
- 主催:電車と青春21文字プロジェクト
- 共催:大津市
- 後援:滋賀県
- 協賛:トヨタモビリティ滋賀、叶匠壽庵、大津商工会議所女性会、近江勤学館、京阪電気鉄道、近江鉄道、信楽高原鐵道、西日本旅客鉄道、京都信用金庫、比叡山鉄道 ほか
- 協力:大津市社会福祉協議会、びわこデザイン文化協会  
滋賀大学・教育学部 附属学校園、滋賀県立膳所高等学校 美術班

<お問い合わせ>電車と21文字プロジェクト tel.080-9750-4344

本プロジェクトは、21文字吉祥の地を舞台とした青春小説の主人公・感涙あかりの活躍を応援しています。



ポスターデザイン:馬淵 哲

今年の活動を振り返る

## 令和6年度滋賀をみんなの美術館に

滋賀県文化芸術振興課／美の魅力発信推進室が募集した令和6年度「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクトに3年目の今年も採択されました。多様な美の魅力が満ち溢れている滋賀県全体を、あたかも、ひとつの「美術館」と感じられるというコンセプトのもと滋賀への愛着が深まっていくことを目指す事業です。

昨年までは「コミュニティ型」でしたが、今年度は「フェスティバル型」で応募し採択されました。地域にある美の資源の魅力を引き出し、開催地域内外の賑わいを創出するとともに、複数のイベントを複数の地域にわたり開催するなど、概ね1000人以上の入場者・来場者が見込めるフェスティバル性のあるもの、という枠組みでした。それにのっとり今回は、八日市駅の近江鉄道ミュージアムでの展示、大津市立図書館や滋賀大学教育学部との連携で幅広い年代や、電車や文芸に興味を持つ層に働きかけました。「鉄道を利用する人に電車の魅力を知ってもらおう展示」や「21文字作品制作ワークショップ」「子どもや若ものたちを巻き込んだ言葉を描くワークショップ」など新規に幅広い取り組みを行い、参加者来場者だけでも1500名をこえました。

これまで募集し発表する側である私たちは、受け取り手である読者と作者との関係性は長年想像の中での世界でした。が、美術館で「21文字メッセージ」をビジュアルに展示したことで作者と読者がこの場で出会い、弾ける笑顔で会話する交流を見ることができました。メッセージを持つコミュニケーション力を実感でき、今後の活動への原動力にもなりました。

## ① 大津市立図書館で21文字作品制作ワークショップを開催

今回初めての試みとして青春21文字のメッセージを「つくる」ワークショップを開催しました（8月24日）。本企画は各々が思い描く景色を21文字で表現する創作体験です。

21文字という文芸の認知を広げるため、大津市立図書館と連携しました。作品募集期間中には図書館入口特設コーナーで過去作品集の展示をしました（7月9日～9月29日、写真①）。

ワークショップ当日は大津市内外から11名の参加者。進行は、長年授業で青春21文字を取り上げてくださっている藤田陽子教諭。そして作品づくりのサポートとして、大津市俳句連盟・大津短歌連盟の協力で実施。広い意味での創作の工夫を教えていただければと、今回サポートを依頼しました。

いよいよ作品づくりです。各テーブルで電車や青春のほか、今回のサブテーマ「ときめき・のりかえ・きらきら」から想起される言葉をメンバーで共有します。その言葉から連想する情景、シチュエーションを言



葉にしていきます（写真②）。1時間弱の創作でしたが、参加者のなかには複数作品をつくられた方もいて、お互いの作品を読み合い感想を伝える様子も。渾身の作品が出来た方はその場で応募していただきました。

## ② 近江鉄道ミュージアムで「青春21文字のメッセージ展」を開催

2024年9月10日から約2か月間、近江鉄道八日市駅二階にある近江鉄道ミュージアムにて「青春21文字のメッセージ展」を開催しました。

入賞作品の車内の中吊り掲出のみならず、昨年度滋賀県立美術館において行われた「青春21文字のメッセージ展」では近江鉄道の座席をお借りして会場内に展示する等、青春21文字と近江鉄道のかかわりは深く、今回は近江鉄道ミュージアムの一角で過去の受賞作と作品集の展示を行うことができました。

昨年度第17回の滋賀県知事賞に輝いた中西太さんは近江鉄道の駅務員であり、受賞した作品「子ども切符を買った子の手に十円の跡」は、実際に近江鉄道で開催されたイベントのワンシーンを細やかに表現されたものでした。このメッセージを他ならぬ近江鉄道ミュージアムで展示できたことは私たちにとっても大きな

意味合いを持つものでした（写真③④）。

展示期間中には、「近江鉄道グループにぎわいづくりDAYガチャフェス2024」が開催。近江鉄道全線が一日100円で乗り放題になるこの日は、沿線50以上のイベントが実施されるなど地域全体を盛り上げる取り組みとなっており、この日を含め600名の来場者が近江鉄道ミュージアムに訪れ、青春の21文字に触れていただくことができました。



### ③ 「滋賀をみんなの美術館に」 作品制作と美術館展示

滋賀大学教育学部馬淵准教授のご協力を得て幼稚園、小・中・高・大の児童生徒、学生が「言葉を絵に表現する」に取り組みました。制作された作品を滋賀県立美術館に展示しました（写真⑤）。

● サブテーマ「ときめき・のりかえ・きらきら」をイメージしたワークショップ作品制作

滋賀大学教育学部 附属幼稚園のワークショップでは、電車が線路を走るイメージや「きらきら」のイメージを5mを超えるロール紙に「ローラー転がし」で園児に表現してもらい（写真⑥）、それを滋賀大学教育学部の学生チームが協働でテーマ「ときめき・のりかえ・きらきら」を構想し、「電車内風景」に見立てたカラージュ絵画に仕上げました。

そこに「青春21文字のメッセージまたはサブテーマをイメージした美術作品」を車内広告風に配置、園児と大学生のコラボにより幻想的な絵画に仕上がり、おもしろい空間ができました。

附属小学校でのワークショップでは、1年生に電車の塗り絵をしてもらい、大

学生がそれを「青春21」の文字になるように繋いでいきました。電車の枠内や枠外を思い思いに描かれた塗り絵はどれも个性的で、楽しい「青春21」文字になり明るい雰囲気になりました（写真⑦）。

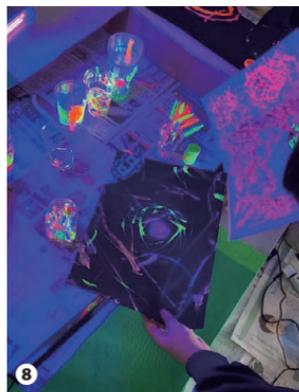
4年生は、「きらきら」をイメージして蛍光色の絵の具やペンで透明板や画用紙、「ダ



5



6



具や材料を使って楽しく個人的に描いている様子がうかがえました。

6年生と4年生の作品を大学生とスタッフがつなぎ、会場で中吊りし、ラボ正面を飾る印象強くキャッチーなオブジェになり、楽しい雰囲気の出展に貢献しました(写真⑨)。番外編として、大学生チームが製作した「ダンボールの電車」に蛍光絵の具で手や綿棒などを使って描いてもらいました。

● 青春21文字のメッセージまたはサブテーマをイメージした美術作品

滋賀大学教育学部学生・附属中学校生徒 滋賀県立膳所高等学校美術班による、「第18回青春21文字のメッセージ入選作品」またはサブテーマからイメージした美術作品については、各々が描きたいというメッセージ作品を選び、絵画・イラストまたカラージュエリーや写真・デジタルで作画してもよいという条件で制作してもらいました。メッセージを自分なりに解釈しながら独自の表現方法の追

ンボールのしろくま」に描き、ブラックライトで発光する「きらきら」の様子を観察する中で、まさしく「ときめき」を感じながら描いていました(写真⑧)。

6年生は、「きらきら」をイメージして画用紙に思いのまま自由に表現。電車など具体的なテーマや抽象的なテーマ、また様々な道

究が見られたり、個性や持ち味が表れた作品がそろい大変よかったですと思います。

すべての制作を振り返って思ったことは、附属幼稚園児・小学生・中学生、膳所高校生は「青春」「ときめき・きらきら」の真ただ中であり、そして、ほとんどが京阪電車を利用していることもあって、本展のイメージを実感を伴いつつ表現できるといふことです。実感を伴う経験が自分の表現の糧になるといふことを改めて思い、私自身にとっても貴重な経験になりました。

(滋賀大学教育学部准教授 馬淵 哲)

#### ④ 滋賀県立美術館でコンサート開催

2025年1月11日(土) 11:00~12:00 於: 滋賀県立美術館木のホール 参加者53名  
青春21文字のメッセージ展初日に音楽演奏を中心としたイベントを開催しました。



メッセージ展でコラボレーションしている滋賀大学から、学生アカペラサークル【MEBA☆CHIKO】、そして滋賀が生んだ3人組バンド【ゴリラ祭ーズ】、2グループのライブパフォーマンス。

まずは【MEBA☆CHIKO】より三回生同期バンド【Ascella】の6人のパフォーマンスから(写真⑩)。重低音から高音まで、重層的なハーモニーを会場に響かせ2曲披露していただきました。現役大学生のパワー溢れるライブパフォーマンスでした。

続いては、ゴリラ祭ーズ（写真⑩）。今回で3回目の出演です。「21文字のうた」を作ってくださいました。第16回のイベント時から出演していただいています。もともと京阪電車石山坂本線沿線の高校で知り合った3人で、青春21文字のメッセージへの作品応募の経験者でもあります。今回はオリジナル曲を含め、6曲のライブです。途中のMCでは、メンバーそれぞれがコレ！と選んだ作品の発表も。普段は表現者ではない市民が、自身の思いを21文字にする。このプロジェクトが作品発表の貴重な表現の場となっていることに大きな意義があるという声をいただきました。

2 グループのライブを楽しみに来場者が席を埋め、その後メッセージ展を熱心に見ていただきました。



旧日野駅

## クラウドファンディングについて

今回も資金獲得にクラウドファンディングを行い、目標額（21万円）を達成しました。最終的に383000円の支援をいただきました。

県内の電鉄会社や船会社など引き続きリターン品の提供を頂いた各社の他、新規の企業も加わりました。昨年に続き地元・大津を舞台とした青春小説「成瀬は天下を取りに行く」で本屋大賞を受賞された作者・宮島未奈さんとのコラボもさらに充実。サイン入りの小説本と小説の聖地巡礼と連なるリターン品「膳所茶」ときめき坂珈琲」などアイテムも昨年より増えて大津の認知度も高まりました。

クラウドファンディングも4回目となり、主宰する私たちは「またか」という印象を持たれるのではないかしらと正直案じておりました。しかしながら応援メッセージでは、毎回応援しているこの事業が継続することが自分のこととしてうれしと言ってくださる方が増えうれしいうれしい限りです。支援して下さる皆さまが添えられていたメッセージをいくつか紹介します。

- 今年も皆さんのあふれるほどの青春に感応して、自らの感性を磨く糧にしたいと思っています。
- 新しい文芸を大津から発信する取り組み、素敵ですね。応援しています。
- 鉄道と町・暮らし・心をつなぐ21文字 の文化を継続してまいりますよ！
- この意義深いプロジェクトが、これからも長く続き、多くの方々に青春の素晴らしさを伝え続けていただけるよう、心より応援しております。
- 本年も実施され、嬉しく、文化振興と地域活性化に感謝です。

## 画家 寺田みのるさんコメント



(\*)地元を愛する画家 寺田みのるさん。各地の鉄道の沿線スケッチ(電車のある風景)を寄せて下さいました。

路面電車が好きです。京阪、嵐電、阪堺線などよくスケッチに出かけます。昭和ロマンが漂う世界が大好きです。欧州でも各国に行き描いています。

### ●プロフィール

寺田みのる、大津市生まれ。旧三洋電機企画部長。  
世界水彩画精鋭選抜展招待作家。  
大津市絵画展審査委員長、個展100回 イタリア、  
フランスでも開催、著書多数

前回（第17回）受賞者コメント

## 前回(第17回) 受賞者コメント

●中西 太(滋賀県知事賞)

青春21文字のメッセージのスタッフの皆様、第17回募集の節には色々とお世話になりました事、厚く御礼申し上げます。また知事賞と言う栄誉を頂き、趣味で始めた作歌活動の励みともなりました。

さて、私は、以前に勤めていた会社を定年した後、65歳から近江鉄道の駅務員として、改札の仕事をさせて頂いています。

私が青春21文字を意識したのは、2023年春頃にいつも通勤で改札を通っていく方に、「私も出すけど駅員さんもお出しませんか？」から始まりました。なるほど、駅には青春21文字のメッセージのチラシとポスターがありました。ところが、青春21文字とありましたので、取っ付きが悪く、お爺さんの私には青春の2文字にあまり御縁がある様には思えませんでした。ところが、よくよくチラシを見てみると、\*年齢を問わず\*駅舎\*無料 とある。

そして近江鉄道が協賛しているらしい、何やらモヤモヤする中で、夏まで駅舎で起こる事をじっと見ていました。やがて近江鉄道で「夏休み期間中子ども10円乗り放題」という企画が始まりました。宣伝が行き届かないのか、あまり反響が感じられなかったのですが、それでもいつもより子供の利用は増えました。

ある日、小学校の低学年の男の子が、お父さんと改札に来てくれました。その時、私は「待ってました」と思いつつ、その子を目で追いました。

「子供切符ください。」と言ってギュッと握りしめている

手を開き、汗で湿っている十円を頂きました。お父さんは後ろでニコニコ笑っていましたが、いい子に育ってほしい、大人になったらまた乗りに来てくれるかなと思いました。

その時の印象が強かったので、「子ども切符を買った子の手に十円の跡」が出来ました。

十円って、いま何を買えますか？ でもその十円が大事なのですよ。

いきなり出来上がった訳ではないのです。俳句は五七五短歌は五七五七七ですが、私の意志と、読んで頂いた方の想像が膨らむ様に、21文字の中に収める事でした。「十円の跡」はインパクトのある文言でした。新聞などで採り上げられて、それを読んだ感想を何人もの方から頂きました。「十円の跡」は色々な想像を生んだ様です。

18年目を迎えられた21文字のメッセージですが、継続して続ける事の難しさを乗り越えていかれます様、また益々盛んになります事、21文字の文学が広く認知されて行きます事をお祈りしたいと思います。

## 作品 【子ども切符を買った子の手に十円の跡】

### ● つべる (大津市長賞)

『第17回青春21文字のメッセージ』にて大津市長賞に選んで頂き、ありがとうございます。受賞の連絡を頂いた際にはとても驚きましたが、大変光栄に感じております。

この作品は妊娠中の実際の体験を応募させて頂いたものです。電車内で出逢った少年が、こちらに気を負わせることなく、さり気なく席を譲って立ち去る様子に、感謝の念を抱くと共に、胸が温かくなったことを今でも覚えています。お腹の赤ちゃんが男の子であることも判明した時期だったため、一層、彼のような優しさを持つ人に育て

たいという気持ちが強くなりました。

そんなお腹の子も、今では3歳。元氣いっぱい毎日走り回っています。残念ながらあの少年と再会することは叶いませんでしたが、彼のような優しい心を親子で持ち、周りに、次の世代に、恩送りをしたいと思います。

これからも『青春21文字のメッセージ』が老若男女問わず、光る言葉との出会いの場、そして、電車という風景を通して、皆の想いが繋がる場所であり続けますよう、心から本事業をお祈り申し上げます。

作品 【さりげなく譲る少年、お腹の子もそう育てたい。】



旧長浜駅舎

## あとがき

18回目を迎え、人間でいえば「成人」ということも今年は意識しました。毎回設定するサブテーマ、今回は、青春時代で「ときめき」電車関連で「のりかえ」、コロナ禍から解放たれて空に向かった時感じる「きらきら」の3つとし、応募総数は4525作品でした。

作品募集に加え今回は、多様な団体と協力しました。天津市立図書館と連携して「作品を作る工程を一緒に」というワークショップ。これまでは応募者個人の意思である創作と学校の授業で取り上げて頂く「団体での応募」でしたが、今回は地元の有識者の協力を得て作品制作講座を実施しました。講座参加者の方から数人が入選され、美術館での発表の際にも駆けつけて「教えてもらったおかげです」との声も頂きました。

また、事業の発祥は、天津市の京阪電車石山坂本線ですが、滋賀県内の鉄道会社と近年連携してきたことから、9月から約2か月間、近江鉄道八日市駅にある近江鉄道ミュージアムにて「青春21文字のメッセージ展」を開催し、多くの来場者に作品を見て頂くことが出来ました。

2025年1月には、滋賀県立美術館で子どもや若者を巻き込んだ企画として滋賀大学教育学部と連携し、サブテーマを基に、幼稚園児や小学生が自由に表現し、教育学部の学生チームの協働で制作したカラージュ絵画や、メッセージ入選100品から「言葉を絵に」する作品を制作して発表しました。青春をテーマにした若者たちのコンサートも実施。

美術館での展示には、入選された方々が多数来場。広島から親子で自分の受賞作品の展示を見に来られた女子大生の親子など、遠方からの来場者も多数ありました。入賞されたおじいちゃんや作品の前で、お孫さ

んから花束を受け取り、家族全員で満面の笑顔で記念撮影をされたりのほほえましい光景もありました。メッセージの作者は、自分の作品を絵にしてもいい展示されることに大変感動を覚えておられました。

加えて、アート作品を制作した幼稚園、小中学校の生徒たちの家族も多数来場され「ことばと絵」双方の作者が会場で、作品を通して交流したりという姿から素敵な空気を感ずりました。

会場のノートにみなさんがつづられた多くのコメント。100選に選ばれありがとうございます、自分の作品を絵にしていただき感動しました、すばらしいイベントです、来年に向けての意欲がわいてきました。21文字から見えるドラマをたくさん楽しめてとても楽しかったです。21文字とイメージ画とのコラボ、滋賀の文化として根付くといいなあ、など私たちが想像した以上にメッセージ制作者も観客も感動されていることばの数々は、今後の展開の大変参考になりました。ことばと絵・音楽と総合的に文化を表現する取り組みに育ってきたと実感します。

クラウドファンディングも4回目となり根付いてきましたが、毎回応援してくださる方からこんなうれしいエールを頂きました。

この度はクラウドファンディングの目標ご達成おめでとうございます。

地域愛と支援愛と作品愛と、愛に溢れているこのプロジェクトの雰囲気は私が好きです。

来年もまた開催されるのを今から心待ちにしております。

幅広い共感と応援を得て これからも市民活動として頑張りたいと思います。

「電車と青春21文字プロジェクト」代表 福井美知子

## 協力者リスト

令和6年度

### 【協力団体・企業】

滋賀県（滋賀県知事賞）

大津市（大津市長賞）

株式会社叶匠壽庵（青春賞）

大津商工会議所女性会（さわやか賞）

トヨタモビリティ滋賀株式会社（ユーモア賞）

一般財団法人天智聖徳文教財団（近江勸学館賞）

京阪電気鉄道株式会社（鉄道賞）

近江鉄道株式会社（鉄道賞）

信楽高原鐵道株式会社（鉄道賞）

西日本旅客鐵道株式会社（鉄道賞）

比叡山鐵道株式会社（鉄道賞）

京都信用金庫（団体賞）

共催…大津市 後援…滋賀県

主催…電車と青春21文字プロジェクト

尼田賢光、石坂線21駅の顔づくりグループ、NHK大津放

送局局長小磯亮、大津市社会福祉協議会、京都信用金庫

大津支店、京阪電気鉄道、しがトコ、びわこビクターズ

ビュロー川戸良幸、毎日新聞大津支局、名鉄観光サー

ビス株式会社、山口浩次 ほか（50音順）

協力…近江鐵道株式会社、大津商工会議所、大津市立図

書館、滋賀大学教育学部、大津市社会福祉協議会、

びわこデザイン文化協会

第18回作品募集ポスターデザイン…角谷和好（びわこデザイン文化協会）

滋賀をみんなの美術館にポスターデザイン…馬淵哲

装画…寺田みのる

表彰式オンライン技術支援…永田和也

## 第 18 回 青春 21 文字のメッセージ

2025 年 2 月 22 日発行

編集・発行：電車と青春 21 文字プロジェクト

© 2025 電車と青春 21 文字プロジェクト  
無断転載・複製を禁じます。

お問い合わせ先：

E-mail: [densyatoseisyun21@gmail.com](mailto:densyatoseisyun21@gmail.com)

Web: [www.densyatoseisyun21.com](http://www.densyatoseisyun21.com)



● 「令和6年度滋賀をみんなの美術館に」  
プロジェクト採択事業

こぼれが光ると おもいが届く



青春21文字  
メッセージ